

教育学部

●デジタルストーリーテリングに取り組まなきゃ「もったいない」

教育学部 附属教育実践総合センター／須曾野仁志(教授)

デジタルストーリー (Digital Story) とは、デジカメ画像やデジタル化した写真や絵をナレーションでつなげていく短いお話 (2～4分程度) のことです。制作では、コンピュータと動画編集ソフト (Windowsムービーメーカーなど) を使っていきます。教員が作るのではなく、大学生、児童生徒、そして、生涯学習者がストーリーを作ることに意義があり、欧米の大学や学校では、デジタルストーリーテリング (Digital Storytelling) として注目されている手法です。

教育学部附属教育実践総合センターでは、平成18年度からこの手法に注目し、様々なテーマで、デジタルストーリーテリング制作を進めてきました。「自分への手紙」、「私のおすすめ本」「青い目の人形と答礼人形ミス三重」「思い出に残る先生」「未来に残したもの」「もったいない」などです。

「未来に残したいもの」では、大学生が残したい風景やずっと大切にしていきたい故郷を、自分自身の未来遺産として、ストーリーにしてみました。この制作活動で、自分自身が住む地域や故郷のすばらしさや住みやすさについて考えた学生が多かったようでした。

「もったいない」というテーマで、デジタルストーリーテリングに取り組んでみると、「時間・お金がもったいない」「彼氏・彼女の思いに気づかずもったいない」という大学生の作品もよくありますが、多くの場合、

◎水の出しっ放しはもったいない

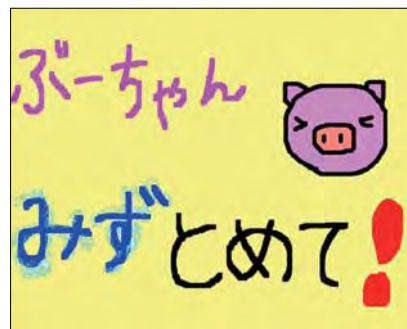


図1

◎電気の無駄づかいをなくそう

◎食べ残しはもったいない



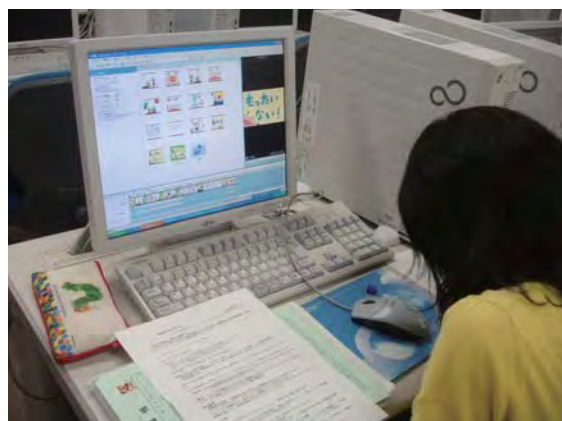
図2

◎エコバッグを持って買い物に行こう

～レジ袋を減らすために～

◎ペットボトルのゆくえ

◎クーラーの冷やしすぎはダメ



制作状況

といった身近なエコの問題を取り上げた作品が仕上がってきます。特に、教育学部での教職授業「教育工学」では、幼児教育コースの学生や小学校教員希望の学生が、小さな子供用に「もったいないストーリー」をよく作っています (図1・2)。実際に、幼児や低学年児童に見せても、「もったいない」の意味や生活に関することがよく分かるようになっていきます。

実際に「もったいない」や環境にちなんだテーマでデジタルストーリーテリングに取り組み、ストーリーを視聴し合うと、制作者がさまざまなことで無駄遣いをしていることや資源を大切に活用することに、これまで以上に気がつきます。そのような身近な環境のことやエコの指摘をする授業感想が多かったです。